

第17回静岡大学技術報告会開催に寄せて

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2012-04-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊東, 幸宏 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00006554

《巻頭言》

第17回静岡大学技術報告会開催に寄せて

静岡大学学長 伊東幸宏

今回で17回目となる静岡大学技術報告会を開催し、初めての試みとして名古屋工業大学・岐阜大学など他大学等5機関からも技術職員をお迎えし報告していただきました。報告テーマは20に登り参加者はおよそ75名と大変盛況となり、技術職員の熱意と意気込みが感じられました。日頃の研究・実績に裏付けられた高いレベルの各自のスキルを発表し、互いに刺激し合う事によって更なる励みとなり、異分野における技術を目にすることで見聞を広め、各自の研究にも参考になる場合もある事でしょう。働く人達のスキルと士気が上がらなければ十分な力が発揮できませんので、この技術報告会は、お互いのスキルと士気を高め合う機会として非常に重要な役割であると考えます。



本学における技術職員の組織は、以前の講座所属から学科、さらに学部単位となり、今後は全学的な組織として再構築していく事になりました。それはすなわち組織の改変に留まらず、技術職員に求められている仕事内容の変化も同時に伴ってくるという事になります。しかし全学組織とする事により、それまでは優れた専門技術を享受できていなかった部局においても新たな可能性も生まれ、大学全体としては相当のレベルアップに繋がるものと信じています。組織を系統的に再構築することにより、責任・監督・指導体制がより明確になり、それに伴うポストの拡大により、指揮命令系統の確立と働き甲斐が得られるものと思います。働く意欲を皆さんから進んで高めて頂き、より良い大学とするために技術職員・教員・事務職員が一体となり、ますます発展する事を願っています。